

# 令和3年度シラバス

言語聴覚士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
言語聴覚障害診断学Ⅲ（成人）		講義	今井 絵美子・高橋 朋佳	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
失語症・高次脳機能障害の鑑別や診断上、特に重要な検査類について施行・採点・記載方法を学び、学習を通して、失語症・高次脳機能障害の症状について理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
失語症、高次脳機能障害の鑑別や診断でよく用いられる検査類の施行・採点・記載方法を学ぶ。検査で得られた結果より症状、病態を把握できるようになる。言語聴覚療法に必要な症例への配慮事項についても学び、全人的な評価ができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	失語症診断の基礎（今井）			
2	標準失語症検査(SLTA)の復習（今井）			
3	標準失語症検査補助検査(SLTA-ST)（今井）			
4	WAB失語症検査（高橋）			
5	重度失語症検査（高橋）			
6	実用的コミュニケーション能力検査（CADL）（高橋）			
7	失語症検査まとめ（高橋）			
8	標準高次視知覚検査（VPTA）（高橋）			
9	標準高次動作性検査（SPTA）（高橋）			
10	失行、失認検査まとめ（高橋）			
11	ウェクスラー記憶検査（WMS-R）（高橋）			
12	記憶検査のまとめ(標準言語性対連合学習検査:S-PA、認知症スクリーニングテスト:HDS-R、MMSEJを含む)（今井）			
13	注意機能検査（標準注意機能検査：CAT、他）（今井）			
14	失語症語彙検査、SALA失語症検査（今井）			
15	Token Test、失語症構文検査、音韻抽出検査（今井）			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	各検査の目的と手法を理解し、反応から症状を把握できることを評価基準とする。		
レポート	10%	授業をもとに評価表作成ができることを評価基準とする。		
小テスト				
平常点	10%	自分の意見や疑問を発信して積極的に授業に参加することを評価基準とする。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準失語症検査マニュアル 改訂第2版	日本高次脳機能障害学会	新興医学出版社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版	藤田郁代・関啓子 編	医学書院		
自由記載				
備考				